茨　城　大　学　学　報

第302号
平成24年4月～平成24年5月

創建当時の姿に再建された六角堂の内部

INDEX

◆　平成 24 年度茨城大学入学式
◆　岡倉天心遺跡「六角堂竣工式」を挙行
◆　名誉教授称号授与式・懇談会を開催
◆　「ＮＨＫ大学セミナー　IN　茨城大学」を開催
◆　建物の壁面緑化を実施
◆　根力プログラムスタートアップ事業として内田美智子氏講演会を開催
◆　「金環日食観望会」を開催

茨城大学総務部総務課広報係
TEL 029-228-8008
FAX 029-228-8019

◆　平成24年度茨城大学入学式

平成24年度茨城大学入学式が、4月6日（金）茨城県武道館（学部・専攻科）、本学講堂（大学院）において、大勢の保護者および学内関係者らの参列の中、挙行されました。

式は、国歌吹奏、各学部等総代の誓書提出に続き、池田学長から各学部、大学院及び専攻科の入学生と各学部編入学生の合計2，230名に対して入学が許可されました。さらに、学長式辞、来賓祝辞、役員・部局長等の紹介と続き、入学生総代、理学部の中上裕貴さん（学部・専攻科）、理工学研究の今岡純基（大学院）より宣誓がありました。最後に参列者全員による校歌斉唱で閉会となりました。

◆　平成 24 年度入学式・学長式辞

茨城大学長　池 田 幸 雄

桜の花もやっとほころびはじめて、ようやく春めいて参りました。新入生の皆さん、ご入学おめでとうございます。また、ご両親を始め、ご家族ご親類の皆様にも、謹んでお祝いを申し上げます。本日は、平成 24 年度の入学式を挙行し、皆さんを茨城大学にお迎えできました事、私達教職員一同は大変喜んでおります。皆さんご自身も晴れやかなお気持ちで一杯の事と思います。

昨年は、3 月 11 日に超巨大地震が発生して、常磐線が不通になり、茨城大学は「入学式」を行う事が出来ませんでした。この事は大変残念に思っていましたが、今年は元気溢れる皆さんをお迎えして、無事に「入学式」ができる事を率直に喜びたいと思います。

「東日本大震災」は 1 年を経過し、復旧復興が確実に進んでおります。茨城大学もかなりの被害を受けましたが、現在では殆ど復旧しており、教育研究には大きな支障がない状態まで回復致しました。最後に残りましたのが茨城県北部の五浦地区に有りました六角堂の再建です。皆さんもご存知のとおり、3.11 の大津波は、太平洋に面していた「茨城大学の五浦六角堂」を飲み込んでしまいました。この「六角堂」は岡倉天心が明治 38 年に建てたもので、大変有名な国民的文化遺産でした。茨城大学は六角堂が沈んだ海底を隈なく調査・探索致しましたが、残念ながら本体を発見できませんでした。このため、茨城大学は「六角堂」を明治時代の原型どおりに復元する事を決め、再建を決意致しました。現在建設が進行中で、今月 17 日には竣工式を迎える事になっています。

岡倉天心は、日本における本格的な国際人で、欧米では大変有名な東洋哲学者であり、日本美術を再興した偉大な巨人でした。彼は、明治 36 年に住居を五浦の地に移しましたが、明治 37 年よりアメリカのボストン美術館で東洋美術部を担当する事になりましたので、五浦とボストンを往来しておりました。明治 38 年頃、岡倉天心は建設したばかりの「五浦六角堂」で瞑想に耽り、哲学的観点より「東洋と西洋の美術の違い」などを考えて居たのではないでしょうか。特にボストンでは茶会などを開催しておりましたので、「お茶の心」について考えを纏めていたと思われます。彼は日本の文化を欧米に紹介するため、明治 39 年に「The Book of Tea」と云う英語版の茶の本をニューヨークで出版しました。この本のなかで、天心は、お茶の歴史を詳しく説明するのみならず、日本の「武士道精神」が「滅びの術（すべ）」を表しているのに対して「茶の道」は如何に生きるかと云う「生き方の術」を表現していると主張しています。また、「茶道は東洋の民主主義の真髄を表している」とも述べています。何気ない日常のお茶にも東洋の心が込められており、「仏教の禅」の心にも通じている事を指摘しています。天心はこの「六角堂」でお茶を飲みながら、日本美術の再興を考え、横山大観などを指導していたと思われます。これらの努力が報われて、彼はついに日本美術の再興に成功すると共に、海外で

は東洋哲学者としての名声を博しました。その業績は現在でも高く評価されています。

茨城大学はこの「六角堂」を立派に復元して、「東日本大震災」からの復興の象徴にしたいと考えております。皆さんも一度は「五浦の六角堂」を訪れて、お茶を飲みながら「激動する21世紀における人間の生き様」などについて、瞑想に耽っては如何でしょうか。

さて、最近の日本の若者は「内向き」な傾向が指摘され、大きな問題になっています。特に日本人の若者が外国留学を嫌がる傾向が指摘されており、面倒な事を嫌う若者の風潮が顕著です。しかし、茨城大学ではインドネシア等の東南アジアへの短期研修を行なっておりますが、学生の参加希望は高く、茨城大学の学生は必ずしも「内向き」ではありません。大学が、面倒な渡航手続き等を整えさえすれば、学生は外国へ行きたいと思っています。茨城大学は、これらの海外短期研修を積極的に進め、学生達の国際感覚を向上させ、グローバル人材に成長して欲しいと願っています。学生諸君には、岡倉天心の「外向き」な姿勢を見習い、勇気を出して、海外研修に積極的に参加し、日本の若者が決して「内向き」でない事を内外に示して呉れる事を期待したいと思います。

最後になりましたが、茨城大学での学園生活を通じて、あなた方の青春を大いに楽しんで頂きたいと思っています。人生において、大学生の時代が最も自由で、しかも実り多き充実した時代です。茨城大学では、あなた方の自主自立性を大いに尊重致します。しかし、社会では、大学生は大人であると見做し、あなた方に倫理的責任を厳しく求めるでしょう。諸君は自分自身で物事を判断し決定する事になりますが、他人に迷惑を掛けないよう充分な配慮をしながら、行動しなければなりません。皆さんはこの事を強く自覚すると共に、若者らしく青春を謳歌し、希望に胸を膨らませて、茨城大学での大学生活を充分に楽しんで頂きたいと思います。

本日は、ここに新入生の皆さんのご入学を歓迎し、これからの皆さんの健全な成長を心から願って、私の式辞と致します。今日は本当におめでとうございます。

◆　岡倉天心遺跡「六角堂竣工式」を挙行

本学では、東日本大震災による津波で流出し、再建を進めていた茨城大学五浦美術文化研究所六角堂の竣工式を、4 月 17 日（火）に現地で挙行しました。

竣工式には、橋本茨城県知事をはじめ東京藝大学長、日本美術院理事、茨城県議会議長、茨城県教育長、北茨城市長、茨城産業会議議長、茨城県建築士会等の関係者約 130 名が出席し、六角堂の再建を祝うとともに復興の象徴として期待を寄せました。

式典は玉串奉奠などの神事を行ったのち、関係者により除幕式を執り行い、創建当時の姿によみがえった六角堂の見学が行われました。

再建された六角堂は、生誕 150 年を迎える岡倉天心への想いを込め、木材は樹齢 150 年の杉の大木を伐採して使用しました。さらに、桟瓦、鬼瓦、宝珠、窓ガラスも当時の技法により製作し、外壁もベンガラ彩色、室内には六角形の炉を設けました。

また、海底調査時に発見した六角形の水晶を唯一創建当時のものとして宝珠内に納めています。

式典は隣接のホテルに会場を変え、引き続き竣工式、祝賀会が行われ、池田学長は式辞の中で「震災からの復興のシンボルとなり、地域の活性化につながることを期待したい」と挨拶しました。

五浦美術文化研究所六角堂は 4 月 28 日（土）から一般公開され、ライトアップ、岩場への雪見灯籠の設置など、新たな印象を持つ六角堂として地域振興の一役を担うことが期待されています。

除幕式の様子

創建当時の姿に再建された六角堂

被災後の六角堂

◆　名誉教授称号授与式・懇談会を開催

名誉教授称号授与式が平成２４年４月２６日に事務局で行われ、役員・各学部長等の関係者出席のもと池田学長から、今回新たに名誉教授となられた方に称号記が授与されました。

名誉教授の称号は、多年本学に勤務され、教育上又は学術上特に功績のあった教授に授与されるものです。

称号授与式に引き続き、新名誉教授と関係者との懇談会が開催され、新名誉教授からは、在職中の思い出話、これからの茨城大学に期待すること等についてお話があり、終始和やかな雰囲気の中で歓談が行われました。

称号記を授与される中島名誉教授

称号授与式後の記念写真

新名誉教授　１２名（敬称略・50音順）
人文学部　有冨　美代子、飯塚　和之
教育学部　稲葉　健五、大内　善一、山本　紀久子
理学部　森野　浩
工学部　鹿子嶋　憲一、梶谷　修一、鴻巣　眞二、城　道介
農学部　白井　誠、中島　紀一

◆　「ＮＨＫ大学セミナー　IN　茨城大学」を開催

茨城大学大学教育センター（佐藤和夫センター長）では、主に１年生向け教養教育授業の企画実施を行っています。その中でも、自然、科学、文学、文化、歴史等の多様なテーマで池田幸雄学長をはじめとする本学役職員が講義をする総合科目「茨城大学の学問を楽しもう」は毎年多くの初年次学生に学問への興味を高め、教養的な視野を広める授業として好評を得ています。

今回、この授業では初めて、学外からゲスト・ティーチャーとして音楽家千住明氏を招き、平成 24 年 5 月 8 日にＮＨＫ水戸放送局とのタイアップで「ＮＨＫ大学セミナー　IN　茨城大学　音楽をアートする～千住明と音楽～」を行い、受講生 470 名が聴講しました。

千住氏は、音楽家になるまでの自身の体験談を基に、夢を決してあきらめずに貫いてきた姿勢や、「３０才までに時間をあげるから自分が熱中していることを見つけなさい」と支えてくれた家族との絆を披露しました。受講生からは「時間をかけてでも夢中になれるものを見つけること」や「人生というものは自分の強い意志さえあればどうにでもなる」という言葉に励まされたとの感想があがりました。

大学講堂での千住明氏の講演「音楽をアートする」

講演会に先立ち挨拶にたつ池田幸雄学長

若いうちにいろいろな経験をし、物事を吸収してもらいたいと話す千住明氏

◆　建物の壁面緑化を実施

本学は二酸化炭素を含む環境負荷の削減を目指し、エネルギーのグリーン化計画に取り組んでいます。今年も低炭素活動の具体的取組として、昨年に引き続き、建物の壁面緑化を実施しました。

昨年は5月下旬に4種類の植物を植える試みを行ったが、時期が遅かったことやゴーヤ以外は成長が遅く、繁茂する期間も短かったことなどの反省点の踏まえ、今年は 5 月 10 日に水戸キャンパスの事務局、各学部事務部の職員が集合し、フラワーポット120鉢・地植え60本に培養土、肥料を入れてゴーヤの苗植えを行いました。今後は各建物に枠、ネットを取り付け、外壁面グリーンウォールを完成させる予定です。

今夏は、昨年並みの節電対策に加え、電気料金の値上げによる経費節減対策も求められることから、自然を利用した省エネ効果を大いに期待しています。

鉢に培養土、肥料入れる職員

苗植えを行う山本惠一理事

◆　根力プログラムスタートアップ事業として内田美智子氏講演会を開催

茨城大学大学教育センター（佐藤和夫センター長）では、学生の就業力育成を目的とした茨城大学根力プログラムスタートアップ事業による平成 24 年度根力育成プログラム科目「生きるということ死ぬということ」（蜂屋大八大学教育センター准教授担当）を総合科目の中に位置づけて今年度より開講しています。このたび、その協賛事業として、長年助産師として命に関わってきた内田美智子氏による講演会が 5 月 15 日（火）に行われました。

全国で幅広い層に対し、講演活動を展開している内田美智子氏をゲストティーチャーとして迎えるため、地域貢献の一環として一般市民も無料で聴講できる形にしました。

「性教育」は「生教育」であるという内田氏は「命」、「生」、「性」、「恋」と「食」というキーワードを基に素敵な大人になるため、今若い世代に伝えたい思いを熱く語りました。東京から駆けつけた一般参加者を含んだ受講生は約 70 名ほどであったが、「思わず泣きそうになった」という男性など、内田氏の熱弁に酔う 1 時間半となりました。

「生きるということ」という題で熱い思いを語る内田美智子氏

◆　「金環日食観望会」を開催

茨城大学理学部は「金環日食観望会」を 5 月 21 日、水戸キャンパスで教職員や学生を対象に開催しました。

今回の金環日食は日本各地で早朝に見ることができ、非常に期待をされていました。しかし、太陽を眼視することによる危険性や、交通事故等の危惧がありました。そこで、安全な観望を行うために、野澤恵准教授による「2012 年金環日食講習会 in 水戸」を 2 月 18 日と 5 月 20 日に開催し、合わせて約 40 名の参加者に対して、日食メガネの扱い方、ピンホールや太陽望遠鏡での太陽の見え方や目に障害を負わないような太陽を安全に見る方法が説明されました。

「金環日食観望会」当日は、太陽の一部を隠す部分日食が始まる午前 6:20 分頃から参加者が集まりだし、金環日食が始まる午前 7:33 分前には 150 名を越えました。そして、野澤准教授らが、太陽を安全に見る方法をアナウンスし、午前 7:33 分から午前 7:38 分までの金環日食にそなえました。金環日食の間、参加者たちは興奮して観望を行い、観望会は太陽と月が離れる午前 9:05 分まで続けて行われました。

今回は天候に恵まれ、最初から最後まで太陽と月の世紀のイベントを観望することができ、参加者も安全に見ることができました。また、太陽が隠されることでいつもの太陽と異なる、夕方のような空間で、教職員や学生が一つの天体現象を一緒に観望するという意義のある会となりました。

木洩れ日が日食の太陽の形をしていることを確認する参加者